

ゴールスプリント勝負を制しトップでゴールするブリッツェンの鈴木謙(中央)。左端はブラーゼンの下島、大分市内、阪本竜也さん撮影



最終周スパート一気

ブリッツェン 鈴木謙 今季2勝目

自転車 JPT第22戦

ブラーゼン 下島が3位

自転車ロードレースのJPT第22戦「おおいた」は道のクリテリウム。29日、大分市のこの道周辺特設周回コース(1.1キロ×30周)で、宇都宮ブリッツェンの鈴木謙が優勝を飾った。鈴木は開幕戦に続く勝利で今季2勝目。ブリッツェンは昨年同レースを青柳憲輝が制しており2年連続優勝を達成した。

集団に鈴木、阿部高之、堀孝明の3選手が入り優位な態勢を築いた。その後、逃げ集団はメイン集団とのタイム差を30秒以上まで広げ、終盤になってもそのリードは変わらなかった。残り1周となり、集団の位置取りが激しくなる中、先頭が上がった鈴木はそのままスプリントを開始。うまくコースを抜け、ライバルたちの追撃を振り切った。1秒差の3位には那須ブラーゼンの下島将輝が入った。

JPT最終戦となる第23戦「おおいたサイクルロードレース」は30日、同市内で行われる。マツダ杯争奪戦決勝(1.1キロ×30周)は、①鈴木謙(宇都宮ブリッツェン)41分59秒、吉田隼人(マトリックスパワー)41分59秒、②下島将輝(那須ブラーゼン)42分0秒、阿部高之(宇都宮ブリッツェン)42分0秒、堀孝明(同)42分0秒、吉田謙(那須ブラーゼン)42分1秒、小野寺玲(宇都宮ブリッツェン)42分50秒、水間健(ホンダ板本)43分1秒、西尾勇人(那須ブラーゼン)43分1秒、藤野寛行(宇都宮ブリッツェン)43分3秒、雨沢毅明(同)43分3秒、小林宏志(ホンダ板本)43分6秒、増田成幸(宇都宮ブリッツェン)43分7秒、大久保隼(同)43分7秒

百戦錬磨の巧さ光る。○「ツアー最終週の連戦初戦でブリッツェンの鈴木謙が技ありの走りを披露、今季2勝目を挙げた。「最後はいいラインを走ってスプリントに挑めた。来シーズンにつながる走りがあった」と殊勲のレースを振り返った。スタートすると9周目に鈴木やチームメートの阿部高之、堀孝明を含んだ逃げ集団ができた。そこには各チームの有力選手も含まれたことから、後続のメイン集団は彼らに勝負を託す格好となり、レースは最終局面まで進んだ。そこで勝負役と目されていたのが阿部だったが、集団に埋もれてしまい、それを見た鈴木が判断よくコーナーを抜けるとトップでゴールした。鈴木ら



ステージで両手を挙げ声援に応えるブリッツェンの鈴木謙(中央)。右は3位に入ったブラーゼンの下島、大分市内、阪本竜也さん撮影

しい百戦錬磨の巧さが光る勝利に、本人は「勝ち方の選択肢の多い、よいチームに仕上がった」と今季のブリッツェンを総括していた。